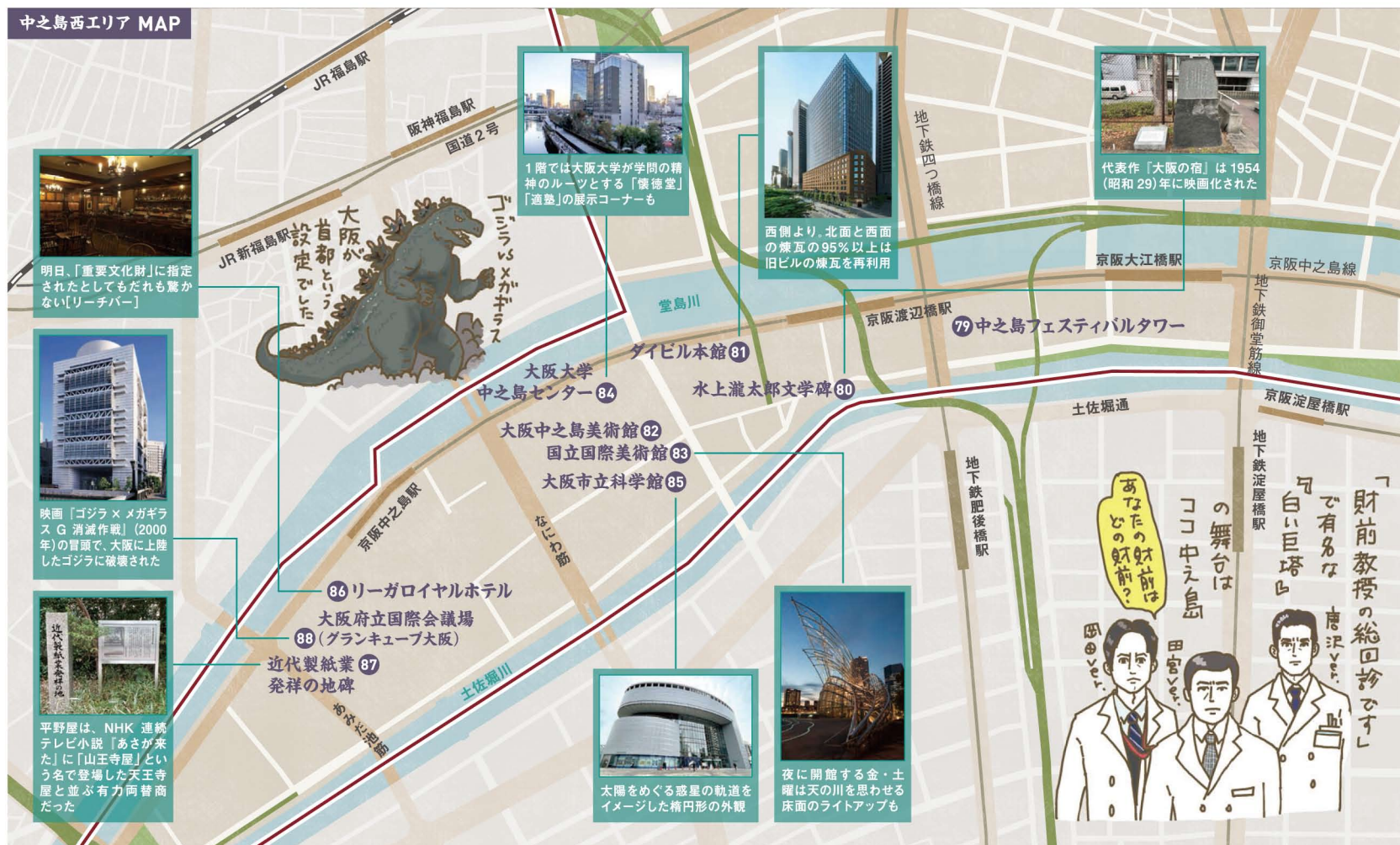


中之島西エリア MAP



87 近代製紙業発祥の地碑

明治初期、熊本藩蔵屋敷の跡地に建てられた製紙工場で、日本初の洋紙が作られた。きっかけは、大阪の商人・平野屋五兵衛がイギリスから洋紙を製造する機械を買ったこと。会社の名前を何度か変えながら第二次世界大戦頃までこの地に工場があった。

▶中之島 5-3-20

88 大阪府立国際会議場 (グランキューブ大阪)

国際会議をはじめ、展示会やコンサートなどを行う多目的施設として、2000年にできた高さ約104mの大阪国際会議場。国立民族学博物館(みんぱく)や国立文楽劇場なども設計した黒川紀章のコンセプトである「共生の思想」に基づき、1階に直射日光や雨を遮る広場を設けるなど、周囲の景観に溶け込むデザインがなされた。地元小学生のラジオ体操や「中之島なつまつり」の会場として、地元住民に親しまれている。

▶中之島 5-3-51

86 リーガロイヤルホテル

1935(昭和10)年に中之島に誕生し、大阪を代表するホテルと謳われた「新大阪ホテル」の流れをくみ、1965(昭和40)年に開業。押しも押されぬ名所が2つある。一つは、開業時の社長・山本為三郎が「民藝運動」の支援者であった縁で実現した1階の「リーチバー」。バーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司、棟方志功、芹澤銈介らの陶芸や版画、染色などが絶妙の間隔で空間に溶け込み、「バー」という世界の中で見事な調和を醸し出す。もう一つは、店内を流れる小川や屋外の日本庭園の滝を望む、1階の「メインラウンジ」。設計者・吉田五十八の圧倒的な空間構成とせせらぎを体感しつつ、小磯良平、小出楢重らの名画を眺めて過ごせる。世界のあちこちに「ラグジュアリーホテル」は数あれど、この2つは他に比較するものがない、間違いなく「再現不可能」な名所である。

▶中之島 5-3-68 ☎06-6448-1121
メインラウンジ 9:00~18:30(L.O.18:00)
※リーチバーは臨時休業中(2021.3現在)

85 大阪市立科学館

かつて四ツ橋にあった電気科学館を継承し、1989年に中之島に開館。個性豊かな学芸員たちが独自のセンスで心ときめく展示やサイエンスショーを展開。宇宙や身近な化学、小さな子どもが親子で楽しめる科学といった展示が4階から1階に続く。名物の地下1階・プラネタリウムのドームは世界最大級、最新鋭の投影機でリアルな星空を再現。熟練の担当スタッフが生解説してくれるプログラムも人気。



プラネタリウムのシートは、そのふかふかさに驚くほどだ

▶中之島 4-2-1 ☎06-6444-5656
9:30~17:00(展示場入場 16:30 まで、プラネタリウム最終投影 16:00~) 月曜(祝日の場合は翌平日)、メンテナンス期間は休館
※施設整備のため2021年8月下旬~22年2月休館予定
展示場観覧料: 大人 400 円、高大生 300 円、中学生以下無料
プラネタリウム観覧料: 大人 600 円、高大生 450 円、3 歳以上中学生以下 300 円

83 国立国際美術館

世界的にも珍しい完全地下型美術館。贅沢な空間に国内外の現代美術コレクションが充実している。小さな子どもと一緒に楽しめるように、授乳室やプレイルームも完備。

▶中之島 4-2-55 ☎06-6447-4680
10:00~17:00(最終入館 16:30)
※金・土曜は20:00まで(最終入館 19:30)
月曜、ほか年末年始、展示替え期間は休館
コレクション展観覧料: 一般 430 円、大学生 130 円

84 大阪大学中之島センター

緒方洪庵が創立した「適塾」を原点とする、大阪大学誕生の地(医学部跡地)に2004年オープン。一般対象の公開講座、講演会、セミナーなども開催され、学問の情報発信地となっている。ちなみに阪大医学部は山崎島子「白い巨塔」のモデル。

▶中之島 4-3-53 ☎06-6444-2100
※改修工事のため2021年4月~23年3月休館

中之島「西エリア」 NAKANOSHIMA [WEST AREA]

近代大阪の発展を支えた産業や学問などのルーツはここに。激動の時代を乗り越えた先人たちのDNAが随所に受け継がれている。2022年2月2日には、待望の大阪中之島美術館が開館。新たな展開も楽しみだ。

中之島は西の端まで見逃せない

79 中之島フェスティバルタワー

2012年にオープンした高さ約200mの超高層ビル。生まれ変わった「フェスティバルホール(客席2,700席)」は以前の意匠が引き継がれ、信楽焼の大レリーフ「牧神、音楽を楽しむの図」も南側壁面に再現。2017年には四つ橋筋を隔てた西側に「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」もオープンした。

▶中之島 2-3-18

80 水上瀧太郎文学碑

小説家の水上瀧太郎(1887~1940)は東京出身。長くビジネスマンと作家の二足のわらじを履き、保険会社で大阪勤務も経験した。碑には代表作『大阪の宿』の一節、人恋しい秋の星空の下を川船が、櫓の音を「ぎい」とさせて通り過ぎていく描写が刻まれている。

▶中之島 3-1

81 ダイビル本館

1925(大正14)年、渡辺節・村野藤吾の師弟コンビで建てられた初代ダイビルは、豪華客船とも評された大正時代を代表する名建築。2013年に現代的高層タワーに生まれ変わったが、低層部に往時の意匠がしっかりと残されている。

▶中之島 3-6-32

82 大阪中之島美術館

「大阪と世界の近代・現代美術」をテーマに、2022年2月2日(水)オープンの新美術館。近代洋画、日本画、現代美術、版画、写真、彫刻、デザインなど幅広いアートをコレクション。佐伯祐三(P22)作品の寄贈を原点とする約40年がかりのビッグプロジェクトのお披露目が待ち遠しい。

▶中之島 4



[外観イメージ 大阪市提供
設計: 遠藤克彦建築研究所]

AREA MAP

